上尾市立鴨川小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

○　がんばる子
○　思いやりのある子
○　元気な子

学校課題研究主題

自ら考え、主体的に取り組む児童生徒の育成～「学力向上」のために各校の実態に即した学習指導を通して～

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、算数ともに平均正答率は全国平均を上回っている。 ・国語の話すこと、聞くこと、読むことに関しての正答率が高い。発言の理由を問う問題の正答率が低い。それに対し、書く問題の正答率が低い。 ・算数では、知識や技能に関することは全国平均を上回っている。図形に関する問題の正答率が低い。また、記述式の問題の正答率が低い。	・学力レベルの平均は、県平均とほぼ同じ水準となっている。 ・国語、算数ともに、学力を伸ばした児童の割合は埼玉県の平均とほぼ同等だが、中間層の学力の伸びが少ない。 ・学習方略では、プランニング方略と作業方略が同等か若干低い。非認知能力の自己効力感については、平均と比べ低い児童が若干多い。	・国語では、読むことについては、ほぼ全ての学年において目標値と同等か上回っているが、言葉の学習については、目標値を下回る学年もあり、主語、述語、修飾語など語の役割についての正答率が低い。 ・算数では、教科全体ではほぼすべての学年で目標値と同等であった。小数や分数の問題の正答率が低い傾向にある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能	②話の中心を捉えて聞いたり読んだりして、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって表現する力 ③試行錯誤しながら最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心をもち、自ら考え、共に学び合う力 ⑤自ら主体的に学習に取り組む力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・基礎基本の徹底のための反復練習とデジタルドリル等を活用した個別最適な課題への取組を行う。 ・指導すべき点と、考えさせる点の明確化による、基礎的・基本的知識及び技能の確実な定着。	・ICT 機器活用による「教え合い、学び合い」と根拠をもった「発表や伝え合い」を実施する。 ・複数の資料を活用した「考察」や「まとめ」と「振り返り」に重点を置いた授業を展開する。 ・自ら問題を解く方法を選択し、考える時間の確保を行う。	・児童にとって身近で必要感があり、興味関心を引き出す「課題の設定」を行う。 ・場面に応じた「教え合い・学び合い」による対話的な活動を実施する。 ・自身の学習に対する取り組み方やよりよい方法を考えさせる。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
・埼玉県学力・学力状況調査等、各種調査の効果的な活用、分析。 ・学習への取組方に着目させた振り返りをもとにした指導方法の工夫。 ・専科及び教科担任制による専門的かつ系統的な指導。 ・デジタルとアナログのベストミックスによる学習の充実。 ・学習規律の徹底「鴨川小１０の約束」「グー、ペタ、ピン」。 ・家庭・地域・学校応援団との連携。	・「家庭学習のすすめ」を活用した家庭学習の習慣化。 ・自主学習の励行及び、学習例の紹介。 ・復習問題や反復練習を中心とした課題。 ・まなびポケット、ｅライブラリ、情報モラルサイト等、デジタル教材を活用した家庭学習

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心をもち、自ら考え、共に学び合う力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②書くことへの抵抗感を減らしていくために、日記など、書きやすい題材を用意するなどして、日常的に書く機会を設けるようにする。 ②自分の考えをメモに書き、そこから文章を構成する活動などを通して、文と文の続き方に注意しながら「はじめ」「中」「おわり」を意識して書く力を身に付けさせる。 《手立て》 ・ＩＣＴ機器を活用し、文や文章の組み立てを繰り返し学習させる。 ・「まず」「次に」「最後に」など順序を表す言葉に着目して文を読む活動を通して、文章の構成を身に付けさせる。 ・主語、述語を用いて繰り返し文章を書く練習をさせる。 ・「どうしてかというと～だからです。」などの定型文や例文を提示することで、進んで文章を書くことができるようにさせる。	
算数	②③	②具体物や半具体物を用いて視覚的、体験的に学習し、答えの根拠や自分の考えについて表現させるとともに、いろいろな表現を認めることで、多角的に問題を捉えようとする態度を養う。 ③学習を通してできたこと、わからなかったことを振り返り、次に生かす力を身につけさせる。 《手立て》 ・学習の基礎をつくる学年なので、具体物や半具体物を用いた体験的な活動を継続的に取り入れて、数量感覚を養うようにする。 ・式の根拠や考え方を半具体物や図、言葉等で表現し、発表し合う活動を意図的に取り入れる。その際、初めに、次に、最後に、など思考の順番を意識させ、筋道立てて話したり、思考の過程を表したりする良さに気付かせるようにさせる。 ・振り返りカードを提示し、どんなことを書くか視点を与える。	
生活	①④	①動植物を育てたり、観察したりする活動を通し、動植物が成長していることや生命があることに気付かせる。 ④地域の公共施設や公共物に対するルールやマナーを身に付けさせる。	

音楽	①④	①音楽を形づくっている要素について知り、要素によって工夫しながら歌ったり、演奏したりできるようにさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせる。 ④旋律作りやリズム作りではＩＣＴ機器を活用し、プログラミング的思考を取り入れながら、主体的に活動できるようにさせる。	
図画工作	①③	①感じたことを色や形などに工夫して表せるように導入を工夫する。 ③手や体全体の感覚等を働かせて、安全に用具を使いながら、繰り返し試みる活動を取り入れる。	
体育	①④	①様々な遊具や用具で多くの運動を体験することで動きを身に付け、きまりを守ることで安全に運動させる。 ④様々な運動遊びを経験させる中で、自分の課題や友達のよい動きを見付け、伝え合えるようにさせる。	
英語活動	①④	①身近で簡単な挨拶や語句を聞き取ったり、話したりできるように歌やチャンツ、ゲームなどに取り組ませる。 ④多くのゲームや歌を通して、一人一人が楽しみながら活動できるようにさせる。	
特別の教科　道徳	②④	②感じたことや考えたことを発表したり、書いたりする活動を計画的に取り入れる。 ④役割演技をさせたり、挿絵を活用したりすることで、主人公に共感させながら道徳的価値の理解を深め、繰り返し指導し実践につなげていくことができるようにさせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心をもち、自ら考え、共に学び合う力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②書かれている文章から読み取った事実と感想や自分の考えを区別して書く活動を取り入れる。また、辞書を引く習慣を身に付け、語彙力を増やせるようにする。 ②主語や述語、接続詞など文の構成に注意して、読み取った内容や自分の考え、思いを言葉に表現する活動を取り入れ、文章の理解力や表現力の育成を図る。 《手立て》 ・説明文を要約する際、事実（例：「〇〇でした。」）と筆者の考え（例：「〇〇と考える。〇〇である。」）を異なる色を引かせたり、ノート等に書き分けさせたりする活動を行わせる。 ・文章の中で述語（例：「～を読んだ」）を提示し、子どもたちに適切な主語（例：「私が」）を読み取らせ、発表させる活動を行わせる。	
社会	②③	②課題解決に必要となる資料を選び、調べてまとめ、人々の生活との関連を踏まえて、自分たちの都道府県の様子について理解し、表現する力を育成する。 ③地図やグラフ等の資料を活用し、必要な情報について調べ、まとめる活動を通して、思考力・判断力を向上させる。	
算数	①②	①具体物やデジタル教材を用いて体験的な学習を行うことで、図形の性質を理解させ、既習の図形を捉え直させる。 ②新たな課題に対して既習事項と比較し、根拠や理由を明確にして自分の考えを表現する活動を取り入れる。 ④自分自身の学習活動を振り返る力を見直す力を身に付けさせる。 《手立て》 ・身の回りにある様々な箱や牛乳パックを分解させ、展開図を考	

		えさたり、デジタル教材等を使って、多角形を回転させたり、平行移動させたりする活動を行わせる。 ・新しい問題に取り組む際、そっくりな既習問題を提示し、どこが同じでどこが違うのかを比較させたり、問題を解く過程を「なぜそう考えたか」「どうやって解いたか」といった言葉で説明する機会を意図的に設けたりする。 ・授業で学んだことや分からなかったこと、今後に生かしたいことを振り返る時間を作る。	
理科	①	①体験的な活動を多く取り入れるとともに、問題解決の過程の中で、「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を追究させる。	
音楽	①④	①音楽を形づくっている要素を掲示し、あてはまる要素について児童に考えさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせる。	
図画工作	③④	③作り出す喜びを味わえるような導入や、イメージを具体化できる創作中の声かけを十分に行い、学習環境の整備を行う。 ④児童の自由な発想・考えを重視し、今までの経験を生かしながら作り出す喜びを味わえるようにさせる。	
体育	①④	①自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることで、解決のための活動に生かせるようにする。 ④友達の考えを認めたり、自分の考えたことを他者に伝える場面を設けたりする。	
外国語活動	④	④様々なアクティビティを取り入れ、既習の英語を繰り返し使う場面を増やす。	
特別の教科　道徳	④	④自我関与や問題解決型の活動を通して、自己と向き合ったり、他者の意見を聞いたりしながら、道徳的価値の深化を図らせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心をもち、自ら考え、共に学び合う力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②登場人物の心情をとらえる学習では、根拠となる文章を挙げて考えるようにさせる。 ②目的や意図、理由や根拠を明確にすることを意識させ、話し合う活動や書く活動のとき、自分の考えを伝える力を身に付けさせる。 《手立て》 ・教科書の文章だけでなく、様々な文章に触れることで、語彙力を増やせるようにする。 ・文章から内容を読み取る力を身に付けさせる。（もう一度解き直す、テスト直し） ・「はじめ・中・終わり」の構成を意識させて文章を書かせる。	
社会	①②③	①様々な資料の中から必要な情報を選んだり、複数の情報を組み合わせたりして目的に合うグラフを選び、読み取った情報を答えることができるようにさせる。 ②予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりし、自分の考えを明確にさせる。 ③グループ活動などで他者と関わりながら、新しい知見に気が付けるようにさせる。	
算数	②③④	①日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解できるようにさせる。 ②既習事項も含め、練習問題に多く触れ、根拠を説明する活動を設定する。 ②式の意味を考え、根拠をもって説明できるようにする。 ②問題文を絵や図、数直線などに表し、理解が深められるようにさせる。 ③文章問題に繰り返し取り組み、課題を解決するための適切な計算の公式を確認したり選択したりできるようにさせる。 ④自分自身の学習活動を振り返る力を見直す力を身に付けさせる。 《手立て》 ・既習の内容や生活経験を基にして、根拠のある予想や仮説を発想させる。 ・問題に対する自分の考えを論理的に書くことができるよう指導する。 ・自分の考えを書いた後、子供同士の教え合い活動を取り入れ、	

		隣同士で説明させる時間を作る。 ・授業で学んだことや分からなかったこと、今後に生かしたいことを振り返る時間を作る。	
理科	②③④	②既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想させるようにする。 ②実験結果による資料をもとにして、結論までを記述できるようにさせる。 ③予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりし、自分の考えを明確にさせる。 ④グループ活動などで他者と関わりながら、新しい知見に気が付けるようにさせる。	
音楽	①④	①音楽を形づくっている要素を掲示し、あてはまる要素について児童に考えさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせる。	
図画工作	③④	③材料に触れたり、友人と交流したり、言葉で考えを整理したりするなど、様々な指導の工夫によって、自分が表現したいことを見つけさせる。 ④繰り返し試したり、友人と積極的に交流したりする場を設定し、自分らしい表現の追究と発見をさせる。	
家庭	①③	①見通しをもって主体的、能動的に学ぶために、ＩＣＴ機器を活用させる。 ③日常生活の実践や体験を授業に生かし、学んだことを生活改善に生かさせる。	
体育	①②	①資料や模範となる児童の動きを参考にして活動させたり、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組まさせたりする。 ②仲間の考えや取組を認めたり、自己やグループの課題解決のために考えたことを他者に伝える場面を設けたりする。	
外国語科	①④	①児童がデジタル教科書を使いこなし、しっかり音を聞き取り、読んだり、書いたりする力をつけさせる。 ④ペア活動やグループ活動を行い、外国語を伝え合う機会を多く設ける。自分に関わることを表現できる様々な場面を用意し、相手に伝わるように、ジェスチャーを取り入れたりするなどして、楽しく英語を用いることができるようにさせる。	
特別の教科　道徳	①③④	①初めに身に付けさせたい道徳的価値を提示し、児童が思考を整理しやすいようにする。 ③葛藤場面ではハートメーター等を活用し、自分の心の見える化を図る。自分の意見との違いを明確にして質問や意見を言い合えるようにさせる。 ④協働学習や、授業の中での社会化を図り、自己と他者が相互に関わり合って生きていることを理解し、道徳的価値の深化を図らせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
家庭・地域・学校応援団との連携	○家庭・学校応援団等との連携 ・校外学習や実習などでの地域・保護者による学習支援 ・学校応援団「読み聞かせボランティア」と地域の方による、児童への「読み聞かせ」「大型紙芝居」の実施 ・学校応援団による下校見守り、校舎清掃活動の実施
基礎学力と基礎・基本的な学力の定着	○学習指導の充実 ・埼玉県学力学習状況調査等、各種調査の分析結果をもとにした指導方法の工夫 ・学習への取組方に着目させた振り返りをもとにした指導方法の工夫 ○高い専門性を活かした教科担任制（音楽、家庭科、理科）と学年内での教科担任制の実施 ○読書活動のさらなる充実 ・廊下へ「おすすめの本」の展示と定期的な更新、読書メダルの活用による児童の読書に対する興味の喚起
ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けた学習の推進	○「主体的・対話的で深い学び」に視点をおいた授業実践 ・児童が主体となる授業や活動の充実、推進 ・ICT 端末、デジタルドリルを活用した学習 ・地域や企業と連携した、社会参画を重視した学習 ・デジタルとアナログのベストミックスによる学習の充実 ○学習規律の徹底・教師の共通行動 ・鴨川小１０の約束、「グー、ペタ、ピン」 ○グローバル化に対応した外国語活動の推進 ・低学年からの英語活動でのＡＬＴとのコミュニケーション
家庭教育との連携	
家庭学習の習慣化	○学校全体での家庭学習のあり方の統一と共通理解 ・まなびポケットやｅライブラリの積極的な活用 ・「家庭学習のすすめ」による家庭学習推進の取組 ・家庭学習の時間や方法の明確化による具体的な取り組み方の提示 ・音読と漢字、計算を中心とした宿題、復習の実施と確認
オンラインを活用した学習	○オンライン学習の推進 ・私用等での欠席時におけるオンラインによる授業参加 ・ｅライブラリや e-board、情報モラルサイトを活用した家庭学習